

# Choho

長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7991

Winter

Vol.  
66

長崎大学広報誌  
[チヨホー]

特集

長崎で学ぶ

ART@CAMPUS

No.12



Tide

## 静物着彩

清野阿衣さん  
教育学部中学校教育コース 美術専攻 2年

モチーフに粗密をつけて構成しています。  
影もモチーフとしてとらえ、白地に対する立  
体感を出すため明暗と床を意識しました。

# Choho

長崎大学広報誌[チヨホー]  
Vol.66

2019年1月1日発行

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>



学長室  
だより

## 歴史に学ぶとは

記憶というものはあまり確かではないと日常的に経験しています。しかし記録というものは、記載した誰かの判断が入っているとは言え、記録以後の変化は発生しないのだから少しは確かだと思っても良いでしょう。この記録が長い時間の中で積み重なった結果、歴史として扱われるようになるのです。

歴史という言葉は、一義的には有史以来の人間社会の変遷を示すのですが、ただ時間の経過を示すということもあります。宇宙の歴史や人の遺伝的歴史のような悠久の歴史を学ぶのも重要なことですが、より身近に感じるのは歴史を人が直接紡いできた有史以来のものです。平安時代から昭和の時代までの人間がそれぞれの時代を生き抜いて、時代とは関係のない普遍的な人の英知と強さ、また愚かさや弱さを伝承してきた結果は、他人の失敗からも学ぶことができる素晴らしい機会だと思っています。

長崎という土地でも多くのことを学ぶことができます。鎖国時の長崎は唯一海外

に開かれた窓口であり、蓄積された文化が日本の文明開化を生み出したのですから、そこに関わった多くの先達から学ぶことも多いでしょう。また、キリスト教が禁止されていた時代を生きた潜伏キリシタンの苦心も、つい73年前の原子爆弾の惨禍から再生した長崎の人の生き方も私たちに大きな示唆を与えてくれます。

ただ歴史はこれだけではなく、個人にもあり、年を経る度に厚みを増していきます。自分の若い頃を振り返り、また若い人を見ていると、自分の夢に向かってガムシヤラに挑戦することは本当に大切なことだと思います。当然そこには無謀さもあり、思慮の足りない部分もあり、失敗することも多いでしょう。しかし失敗の原因を考え、そこから学び、次の機会をうかがうガッツ(気力)が自分の人生を掴み取る道ではないかと考えています。さらに自分の経験だけでなく、先人の経験からも学ぶのが歴史であり、ここを真剣に学ぶことが、より自分の信じる道に突き進む方法ではないかと思えます。



河野 茂

特集

# 長崎で学ぶ

大学生活が充実したものになるかどうかは、その大学がある街によっても大きく変わります。

長崎大学は、特別な歴史と文化を持った街・長崎にある大学として、街の魅力を最大限に活用したプログラムをたくさん用意しています。

さまざまな環境で多様な人々と接する経験により身に付く実践力や協調性、積極性は、

国内外、どんな現場でも生きてくる力です。

世界にはばたくために長崎で学ぶ。長崎での学びが世界で生きる。

実際にフィールドで学ぶ学生の生の声をお聞き下さい。

### CONTENTS

長崎大学広報誌  
「チョーナー」  
Choho Vol.66

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇」からと明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡ください。

学長室だより	歴史に学ぶとは	1	表紙のはなし
特集	長崎で学ぶ	2	
サークルの星!	鯨類研究サークル Balaena/ 機械ガール/熱帯医学研究会	13	教育学部4年の石橋千尋さん(左)と新田唯さん。親友の2人が教育実習でお世話になったのは、南島原市有家町の蒲河小学校です。収穫祭が行われたこの日、学校には保護者や地域の皆さんが大集合しました。
Topics	世界を動かすグローバルヘルス 人材育成プログラム	15	
進 解	下村 脩博士を偲ぶ	17	
グラバー四講	ブリ/山口敦子	19	
Information	入学試験情報 クイズ&編集後記	21	



特集  
長崎で  
学ぶ

# 長崎と長崎大学 連携することで まちが活性化する



Takashi FUJIKI

藤木 卓

理事・地域貢献担当

長崎大学の強みの一つは現場に強いこと  
それは座学を基礎に地域での体験や実習を重視しているからです。  
さまざまな環境で多様な人々と接する学びにより  
国内外での実践力が身に付きます。  
学部で、大学全体で、今、多彩なプログラムが行われています。

## 長崎観光の 起爆剤となるか？ 「学生チーム」も始動

長崎大学と地域との関係性について地域貢献担当の藤木卓理事にお話を伺いました。

「近年、国は地方創生について地域の

享受する側と提供する側の双方を体験し、観光ビッグデータなどの活用を学びながら、新しい観光企画を立案・実践するというプロジェクトです」。

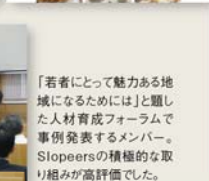
興味深いですね。

「仕掛ける側に戻ることで、協調性や積極性が身に付きます。プロジェクトが成功すれば起業に結び付くこともあるでしょう。今、長崎に必要とされているのは、街を愛し、誇りに思う気持ち、すなわちシビックプライドです。長崎のために何かやりたい」という地域愛を育むことで、卒業後に長崎に就職する学生もいるだろうし、他県で働きながらUターンを視野に入れる人や、長崎ファンとして息長く支え

## 1 NPO:法人Slopeersで 長崎をもっと面白く!

2016年から始まった学生の自主企画「Slopeers」は、ボランティアではなくビジネスとしてのプロジェクトを数多く運営するNPO法人。広報担当の小浦悠さん（経済学部3年）のお話です。「長崎は長期インターンシップができる場がなく、ならば自分たちで立ち上げようというのが始まりでした。南山手など斜面地で暮らす人々の元に修学旅行生を案内する事業部や、県内就職を考える学生が企業CMを制作するスロナビ事業部、就活前の学生の名刺を作るハツメイシ事業部、学生目線のカフェ紹介サイトを運営するカフェ事業部など、複数のプロジェクトが動いています。アルバイトとは違うビジネススキルを身に付けられると経済学部の学生30人が関わっています。

左はスロナビ事業部の企業CM制作会議。下はカフェ紹介サイト。



「若者にとって魅力ある地域になるためには」と題した人材育成フォーラムで事例発表するメンバー。Slopeersの積極的な取り組みが高評価でした。

## 2 長崎大学独自の 地方創生活動支援金制度

長崎で学び、将来長崎のために役立ちたいという人にニュースです。長崎県内の企業への就職活動、ボランティア活動およびインターンシップなどの活動を支援する「地方創生活動支援金」(月額2万円)制度が、平成30年度の3年生より開始されました。地方創生人材学士プログラムを受講し、長崎県内の企業へ就職するなど、地方創生に貢献することができる学生を支援する制度で、すでに40名の学生が活用しています。

地方創生推進本部 TEL.095-819-2107

<http://www.cocp.nagasaki-u.ac.jp/>

国立大学を核として語ることが多くなり  
ました。長崎大学のように、その県に一つしかない国立大学は、地方創生の拠点としての役割を担っているのです。長崎が元気になるためには長崎大学が欠かせないし、長崎大学が発展していくためには長崎の街が活性化しなければいけません。連携することでまちづくりに寄与することになるのです」。

ていく人も増えるかもしれません。学生の県内就職に関しても新しい支援制度がスタートしました。

地域と大学の理想的な関係が構築されるのです。一方で、世界はグローバル化が加速しています。

「グローバルとローカルは逆の概念ではありません。例えば、大学時代を長崎で過ごしながら長崎のことを何も学ばないまま卒業する人は、採用する企業側からすれば「視野が狭い」と思われかねません。海外で日本や長崎の魅力を聞かずに「知りません」では国際交流は成り立たず、ローカルな体験こそがグローバルなシーンに生きてくるのです。また、都

お互いに良い影響を与え合うのですね。  
「はい。長崎大学は以前から「やってみよう」が介在する地域でのボランティア活動が盛んで、自主企画を立ち上げる積極的な学生が多いのです。最近では経済学部の学生主体のNPO法人「Slopeers」による地域プロジェクトが動き出しています。このような長大生の気質を生かして、今年も地域共同型の

市や農村部、離島など地域のさまざまな環境での実習は、将来的に海外で働く際のトレーニングにもなります。そこで、グローバルとローカルのバランスが取れた「グローバル」人材の育成に積極的に取り組んでいます。例えば、教養教育では長崎地域学という地域科目があります。学外から講師を招き、長崎の歴史や文化を学ぶもので、評判がいいです」。

地方メディアの報道関係者や博物館の学芸員、地元出版社の編集長など、講師の顔ぶれが面白いですね。

「ある時の講義は、長崎の世界遺産の知られざる背景について。またある時は「長崎に多い、坂、薬、パカ(祭り好き)」

観光人材育成事業の準備が進んでいます。これは、長崎市などが推進中のDMO (Destination Management Organization) 組織の中に大学生チームをつくらうというものです。長崎大学側から長崎国際観光コンベンション協会に提案し、長崎青年会議所とも協議します。詳しくは2月の長崎サミットで発表されますが、要は学生が観光サービス

というテーマ。「なんだこれは!」というインパクトが学生の心を捉えます。その講義を聞いて現地に向ければ、新たな気付きもあるでしょう。学びを自分の中に落とし込んでいくことができます。各学部のカリキュラムでも離島やへき地での実習や各地でのフィールドワーク、企業の課題解決のための企画立案など、多彩な取り組みがなされています。長崎大学に來れば、わくわくすることがたくさん体験できるし、実社会でも役立つ実践力が自然と身に付くのです」。

では、どのような学びが地域を舞台に展開されているのか、体験した学生たちの声を聞いてみましょう。



◆離島医療・保健実習の実施施設

下五島コース

- 長崎県五島中央病院
- 久賀診療所
- 三井診療所
- 山内診療所
- 玉之浦診療所
- 富江薬局
- 赤智医療センター
- 伊福貴診療所
- 野中クリニック
- 五島市国民健康政策課
- 五島市長寿介護課
- 長崎県五島保健所
- 五島市社会福祉協議会
- 訪問看護ステーション・設備
- 訪問看護ステーションふくえ
- 横山歯科医院
- 近藤歯科医院
- こまき歯科医院
- 久賀歯科診療所
- 岐宿歯科医院
- 桜野調剤薬局三井薬店
- 只野社
- あおむら薬局
- ニック調剤薬局
- 福江薬局
- ゆうとく薬局
- あい調剤薬局
- 社友堂薬局
- サポートセンターきらり
- 井上内科小児科医院
- みどりが丘クリニック
- 伊福貴歯科診療所

対馬コース

- 対馬いづは病院
- 豊玉診療所
- 長崎県対馬保健所
- 特養わたづみ
- 長崎県対馬保健所
- 地域活動支援センターきらり
- 対馬市健康づくり推進員いし健康課
- 対馬市社会福祉協議会

志岐コース

- 志岐市保健環境部健康保健課
- 長崎県志岐病院
- 介護老人保健施設光風
- 在宅ケア総合支援センター
- 長崎県志岐保健所
- 光武内科循環器科病院
- 三島診療所
- 原島診療所

上五島コース

- 長崎県上五島病院
- あおかた調剤薬局
- 有川医療センター
- そらご薬局上五島店
- 新上五島町社会福祉協議会
- 鈴木薬局
- 新上五島町健康保険課
- あけから調剤薬局
- いるえんびつの家
- 老人保健施設つくしの里

# 超高齢社会のケーススタディを学ぶ

医学部・歯学部・薬学部 / 離島医療・保健実習

## 十四年間の蓄積が 高密度の実習に結実

長崎県は、島の数が日本一多い地域です。五島列島、対馬、そして志岐など。それらを舞台に地域医療・保健の実習を行う医学部、歯学部、薬学部の離島実習は、長崎大学ならではの特徴的なカリキュラムといえます。現地のコーディネートを行うのは、五島中央病院の二画に拠点を構える離島医療研究所。常駐している野中文明助教のお話です。

「この研究所は、医歯薬学総合研究科の離島へき地医療講座の離島拠点として運営されており、島の検診データをベースにした疫学研究と並行して学生の実習を行っています。医学部と歯学部の学生は全員必修の四泊五日の離島実習があるほか、医学部・薬学部は高次臨床実習（参加型臨床実習）で選択すれば医学部は約2ヵ月、薬学部は週間の離島実習の機会があります。実習では見学の他、問診をすることもあります。受け入れてくださるのは、地域中核病院やへき地の診療所、歯科医院、薬局、訪問看護ステーションやデイサービスセンター、老人ホーム、行政機関などで、皆さんのご協力のおかげで成り立っています。」

「連年の離島実習が始まったのは平成十六年。以来十四年間の積み重ねでつくられた多彩な実習メニューは、全国的に地域医療教育の重要性が叫ばれる今、特に注目を浴びています。」

「実は私も長崎大学の卒業生なのでそのもうれしかったです。講話後の測定でも会話が弾んで、私もいつのまにか五島のイントネーションになっていました。」

平井真智子さん（薬学部薬学科六年）は他職種連携が興味深かったそうです。「医歯薬学の学生同士でも専門用語が通じない場面があって、他職種連携の難しさや発見も多かったですね。大きな病院の薬局と、島に軒しかなかった薬剤師の役割の違いなども客観的に見られましたし、人算らしのお年寄りの家に行く場合に複数の職種で連携して回数を増やすなど、限られた医療資源の活用も考

奈留島へ向かう船に乗る山口恵利帆さん（医学部5年）。



が、在学中の離島実習の経験は非常に印象深いものでした。「あの時、島で診たおじちゃんあの症例」は座学での知識より覚えていたものです。大学病院の場合には診断が確定した患者さんについて研修を行います。島では「だるくて熱がある」といった診断が確定していない患者さんの問診から始めるわけですから、これは貴重な勉強となります。また「そろそろ芋はできたね」といった日常会話を交わしながら時間をかけて診察の様子など、学生が学ぶことは多いです。」

二次離島といわれる本上から直接アクセスできない島へも行くそうです。「はい。そこでは小さなコミュニティで週一患者さんの在宅医療に接する機会もあり、医師や看護師、ケアマネージャー、介護福祉士といった各分野の専門家が行うチーム医療の実際も見学できます。近年は、歯学部生が内科の診察を見学したり医学部

えさせられました。」

実習の前夜で延泊し、島の方と深く交流をした福井咲穂さん（歯学部五年）のようなお話もあります。

「五島は大好きで四回目です。実習後にロードバイクで島を一周すると言ったら、実習でお世話になった看護師さんが「うちに泊まっていかな」と泊めてくださったことも。以前実習で訪れた施設のおじちゃんを顔覚えていてくれたのもうれしかったですね。二次離島は特に歯科への通院が困難なこともあり、診療も念入りになります。「まだどこか気になる」という患者さんの要望を何度も聞きながら入れ歯の調整をします。コミュニケーションの中で患者さんの生活環境を知ることが大事と先生に指導されたことが心に残っています。」

野中先生は語ります。

「指導員の方々は専門職のプロですが学生への伝え方に戸惑うこともあります。」

## 地域のコミュニティで 必要な連携や 助け合いを学ぶ

生が薬局で見学したりといった他学部の領域での実習も増やし、職種間の役割への理解を深める試みも行っています。」

実習に参加した山口恵利帆さん（医学部五年）のお話です。

「離島医療は言葉では理解していたつもりですが、実習は初めてのことばかりで勉強になりました。特に船で二次離島に向かう際には、地域を支えるドクターになったような、引き締まった気持ちになりました。地域で脂質異常症についての健康講話も行ったのですが、より分かりやすいよう試行錯誤したかきもあって参加者の方がメモや質問をして熱心に聞いてくださった

離島って過疎化が進行しているけれど、その分、地域コミュニティはすごく強いんだと感じました



薬学部薬学科六年 平井真智子さん



五島市の地域の人々を対象にした健康講話を行う山口さん。コレステロールも善玉と悪玉でキャラクターを交えるなど工夫したそうです。

そこで、自らの教育力を上げていこうという大学認定の勉強会も行い、質を担保しています。」

この勉強会で報告された学生の感想に、印象的な一言がありました。

「大きな病院に比べ、一人一人にかける時間の長さを感じた。患者さんの満足度は診察の結果より診察における医療従事者の真摯な態度に左右されることを知った。離島医療の強みは住民同士のつながりの強さ。それがこれから日本が迎える高齢社会のキーワードになるのではないかと。」



介護施設でお年寄りと交流する福井咲穂さん（歯学部5年）。「お年寄りとの接し方は介護経験のある母に教わりました。背後や上から話しかけない、必ず目の高さをそろえてお話しするようにしました。」



## 島原半島を舞台にした 新しい講座がスタート

環境科学部では、年次から、フィールド実習を重視しています。「環境フィールドスクール」もその一つ。同スクールは、現場へ赴いた上で地域課題を理解し、解決へ導く人材となるために必要な能力を身に付けてもらうという実践のプログラムです。渡辺貴史教授にお話を伺いました。

「平成三十年度は、奥雲仙山代原のミヤマキリシマの保全活動、長崎県の被害対策など計七回開催しました。新たな動きとしては、「島原半島における着地型ジオツーリズム開発講座」が挙げられます。これは修学旅行向けのプログラムをくりたいという島原半島ジオパーク事務局と旅行会社からの依頼を受けたもので、修学旅行で島原半島を回る際に、ジオパークについてもより学習効果が高まるルートなどを考える講座として三回開催しました。将来的には、学生が修学旅行の運営を助けるメンバーとして関与することも念頭に置いています」。

プログラム全体を通して、得られる学びとは？

「例えば地域へ赴き実践的な活動に参加すると、課題に対して様々な人が関わっていることが分かります。また、課題解決に際しては、当事者同士の話し合いと合意形成が必要不可欠ですから、対話を通じてそれぞれの意見を理解させて合意形成を

## 事前準備も実習の一部 自主性を磨こう

日まぐるしい社会変化に柔軟に対応するためのインターシッパ科目「蓄積型体験学習」。担当の山内正毅教授に、選択制カリキュラムの一つである離島へき地実習についてお話を伺いました。

「平成三十年度は、上五島、下五島、平戸市、南島原市の四地区、合計十九の小学校で五十四名の学生を受け入れていただきました。実習校の選択や日程調整、実習計画の事前打ち合わせなど、学生自らが先方とのやりとりを含めて運営するシステムを取っています。サポート組織として学生部会がありますが、これについても蓄積型体験学習の取り組みの中に含まれています」。

この実習ならではの特徴とは？

「附属学校園で行う教育実習では、主に教科指導をトレーニングしますが、離島へき地実習の場合、学校が地域の中でのように運営され、小規模校での教師の振る舞いはどうあるべきかなど、いわゆるへき地での子どもと親・教師像を学ぶことが大きな目的になります。小規模校の場合、地域との交流が盛んな学校も少なくありません。過疎化が進む町は、若い学生が来るだけで元気になり、地域の方も喜んでくださっているようです。また、長崎はたくさん文化遺産があります。また、そういった伝統的なものと現地で出会うと、歴史を

## 小規模校ならではの教育方法を体験

教育学部／蓄積型体験学習「離島・へき地実習」



お餅を丸めるのって、  
こんなに難しかったんだ。  
子どもたちの方が上手だね。



餅つきや竹とんぼ製作など和気あいあい。子どもたちと過ごす貴重な体験になりました。



小学校教育コース4年  
石橋千尋さん(左)  
新田唯さん

南島原市立蒲河小学校で11月16日に行われた収穫祭。保護者や地域の皆さんも参加し、にぎやかな一日に。

南島原市立蒲河小学校で11月16日に行われた収穫祭。保護者や地域の皆さんも参加し、にぎやかな一日に。

「子どもたちは先生にたくさん話を聞いてほしいです。」「自分の姿を見て子どもたちが良い方向に成長してくれるような尊敬される先生になりたいです。今回の実習では先生方に優しく接していただき、こんな温かい学校で働きたいなと思いました。」(新田さん)

「実習中は毎朝子どもたちと一緒にランニングをしました。人数が少ない分、学年間わずらみ仲が良く、思ったことを素直に何でも話してくれました。あつという間の五日間で、子どもたちや先生方に会えなくなると思うと寂しかったです。」

「実習最終日は、保護者や地域の皆さんを交えて収穫祭が行われたそうです。」「はい。私たちも前日の準備からお手伝いさせていたのですが、保護者の方々が主体となって動かれていて印象的でした。当日も保護者の皆さんや地域の方が、たくさん参加されていました。」

「実習中は毎朝子どもたちと一緒にランニングをしました。人数が少ない分、学年間わずらみ仲が良く、思ったことを素直に何でも話してくれました。あつという間の五日間で、子どもたちや先生方に会えなくなると思うと寂しかったです。」

## 百聞は一見にしかず、課題解決は現場から始まる

環境科学部／環境フィールドスクール



新聞記者になる夢が叶いました。  
これからも、地域の課題と  
向き合っていきます!

環境政策コース4年  
東菅晃さん

「環境フィールドスクール」は、水産・環境科学総合研究科に設置されたアジア環境レジリエンス研究センターが実施するプログラムです。平成30年度第6回講座は、「島原半島における着地型ジオツーリズム開発講座2:火山の災害と恵み」と題して、島原半島ジオパーク事務局の協力の下、島原大変の災害遺構を巡るまち歩きを体験しました。

「卒業後は、熊本県内の新聞社へ就職されるそうです。」「はい。実は対馬で活動していた時、地元の方から「島に移住して働いてくれるんだよね」と言われ、それに応える言葉が出ませんでした。期待に直接応えられないかもしれないけれど、地方紙の新聞記者だったら地域の課題を地域目線で捉え、伝えられるかもしれないと思いました。そもそも「年次に環境フィールドスクールを受講していないければ、新聞記者を目指していかかったかもしれない。地域の皆さんが抱える課題を社会に発信できるような、恩返しのつもりで頑張りたいです。」

「卒業後は、熊本県内の新聞社へ就職されるそうです。」「はい。実は対馬で活動していた時、地元の方から「島に移住して働いてくれるんだよね」と言われ、それに応える言葉が出ませんでした。期待に直接応えられないかもしれないけれど、地方紙の新聞記者だったら地域の課題を地域目線で捉え、伝えられるかもしれないと思いました。そもそも「年次に環境フィールドスクールを受講していないければ、新聞記者を目指していかかったかもしれない。地域の皆さんが抱える課題を社会に発信できるような、恩返しのつもりで頑張りたいです。」

「卒業後は、熊本県内の新聞社へ就職されるそうです。」「はい。実は対馬で活動していた時、地元の方から「島に移住して働いてくれるんだよね」と言われ、それに応える言葉が出ませんでした。期待に直接応えられないかもしれないけれど、地方紙の新聞記者だったら地域の課題を地域目線で捉え、伝えられるかもしれないと思いました。そもそも「年次に環境フィールドスクールを受講していないければ、新聞記者を目指していかかったかもしれない。地域の皆さんが抱える課題を社会に発信できるような、恩返しのつもりで頑張りたいです。」



### 現場実践を通して 理論への理解が深まる

三年次後期の選択科目である漁業練習船長崎丸の乗船実習Ⅰ。五島市福江港への航海を行い、島内で様々な実習を体験します。亀田和彦教授にお話を伺いました。「五島市とは二〇一四年より包括連携協定を結んでいます。それ以前から、実習、調査、研究などでお世話になりました。つながりを深めていました。この実習においても、現場の漁業者をはじめ、水産関係の皆さんにご協力いただいています。」

現地ではどのような実習を行いますか？  
「例えば、いかで泳いでいる養殖マダコをストレスをかけないように取り上げ、即殺、血抜きした後に冷水槽に入れる。連の作業を見学します。授業で学んだ鮮度変化に関する理論が、高度な熟練を要する現場作業工程に定着していることを目の当たりにして、現場と理論の理解が深まります。水産学部では四年次から研究室に所属します。魚が商品が変わっていくプロセスを見ることが、現場の苦労や課題に気付くことができ、自分自身の研究とリンクさせられるものがないか考えるきっかけにもなるのです。」

次の実習では二〇一八年四月に就航した新長崎丸が初めて福江港に入港します。「福江港に停泊中、新長崎丸の一般公開を行います。五島の皆さんにとっては日常生活の一部である海が、実は研究の場でもあるのです。」

### 研究者と共に学び 未来像を思い描く

長崎学に関連する研究、調査、資料収集の拠点として、二〇一六年に長崎市が開設した長崎学研究所。開設と同時に、大学、博物館、郷土史研究団体、長崎県から成る「長崎学ネットワーク」が組織され、さまざまな取り組みが行われています。組織と大学の関わりについて、長崎学ネットワークで理事を務める木村直樹教授のお話です。

「長崎には長崎学研究をけん引してきた市民レベルの団体がたくさんあります。しかし、研究という点において、次世代を担う若手が育っているかと言えどもそうではありません。今後、人材育成の面で先細りにならないためには、大学といういわば教育組織そのものが直接的に関わる必要があります。具体的には、研究所主催による研究発表会や、長崎学ネットワークが主催する公開学習会が行われており、二〇一八年一月よりネットワーク内に史料部会を立ち上げて、江戸時代の古文書を読み解く勉強会も始めました。」

学生はどのように関わっていますか？  
「定期的な活動としては古文書の勉強会に参加しています。勉強会は毎月一回、長崎市、長崎県、長崎歴史文化博物館の学芸員の皆さんが集まります。若手が多く、彼らから直接話を聞くことは刺激になります。将来は研究者や地方の文化行政に携わりたいと考えている学生にとってロールモデル

## プロの仕事に学ぶ水産業の本質

水産学部／長崎丸乗船実習



「五島メ」を実践している漁業者による魚のさばき方指導の様子。「五島メ」とは、高い価格評価を支える即殺処理の呼称。水産学部と長崎県が共同で普及を推進しています。

実習中は船内で共同生活をします。  
お互いに助け合う  
気持ちが育まれますよ。

水産・環境科学総合研究科  
博士前期課程1年  
平山由布さん(左)  
山田実紗子さん



定置網から漁獲物を取り上げる作業を体験。

ることを、実感していただければと思います。」  
博士前期課程一年の平山由布さんと山田実紗子さんは、現在、大学院で食品分野の研究に励んでいます。四泊五日の行程で印象に残っている実習を教えてください。「漁業者の皆さんに教えていただきながら、大きなブリをさばいて刺身にしました。定置網に入った魚が実際に商品になるまでの過程を見させていただいたのですが、商品価値を高めるためには、現場の皆さんの技術力が大切であることを学びました。」(平山さん)  
「福江市市で見学した、魚の競りが印象に残っています。「五島メ」という鮮度保持の方法があるのですが、それが五島メをした魚なのから分らない私たちに、漁業者の皆さんが分けて教えてくださいました。もう一つは意見交流会です。水産学部の学生に何を求めるかという質問をしたところ、「もうかる魚の作り方を教えてください」という答えが返ってきました。やはり産業である以上、利益を生まなければ意味がないという現実を再認識しました。」(山田さん)  
魚は食料としてだけでなく、肥料、飼料、薬や化粧品原料などにも使われています。漁業者のみならず魚を扱う事業者の努力なくして良質の商品は生まれません。大学で得た学びをどのように活用し、どのように役立てるのか。五島実習はさまざまな気付きの場でもあります。

## 長崎学研究を担う次世代の人材育成

多文化社会学部／長崎学ネットワーク「史料部会」

オランダ特別コース4年  
山本瑞穂さん

社会動態コース4年  
大淵菜音子さん



古文書からひも解く、  
外から見た長崎の歴史も  
とても興味深く面白いですよ。



この日の勉強会には学生3名が参加。原本と翻訳を見比べる眼差しは真剣そのもの。長崎歴史文化博物館で毎月1回行われている古文書の勉強会では、細川家の書翰を解読、現代的な解釈への置き換えや読み間違いの指摘などディスカッションします。※長崎学=長崎の歴史や文化に関する学問・研究

ルにもなるのではないのでしょうか。また、ローカルな地域からグローバルな世界との関係を学び、自分たちの社会の立ち位置を強く確認することになります。」  
古文書の勉強会に参加している、オランダ特別コース四年の山本瑞穂さんと社会動態コース四年の大淵菜音子さん。外から見た長崎という視点で、長崎と関わりが深い熊本藩細川家の書翰を解説しているそうです。「当時はメールもなく、紙という媒体に頼っていた時代ですが、紙自体が貴重なものだっただけに、書ける内容は限られていました。書簡の中からテンプレートのような言い回しを見つけて、それらを手掛かりに関係性などを読み解いたりもします。難しいですが、学芸員の方は現代語訳にするだけではなく、登場人物や会話の内容まで発表して下さるので、とても勉強になります。」(山本さん)  
「例えば、偉い人の名前の前には少し空白を入れるなど、昔の手紙には独特の表現方法があり、上下関係まで見えています。また暗号解読みたいなんですよ。将来も何らかの形で関わりたいと思うほど、古文書を好きになりました。勉強会では、私たち学生が発表や質問をすることもあります。学芸員さんの前で発表するのはドキドキします。」(大淵さん)  
地道に積み重ねられてきた長崎学の研究成果を、今後さらに発展させるためには、二人のような若い人材を巻き込み、育てていくことが大きな力になります。



## 社会人として 活躍する第一歩

長崎大学経済学部クリーニング業を営むスワンドライ、J.A.ことが共同で、五島産椿油を使用した洗濯洗剤などの開発・販売を行う「五島産椿油プロジェクト」。「学農商工連携」という幅広い分野で力を合わせる体制の中で、ゼミ活動の環として関わる学生たちは商品プロモーションを担っており、企業の現場を体感しながら課題の解決を目指します。経済学部の中西善信准教授のお話です。

「経済学部では、教科書の知識だけではなく実践的なスキルの獲得にも力を入れています。なかでも、県内の企業、団体と学生のグループが共同で課題解決を目指す三年生のゼミ活動はその中核を担うものです。食品会社や通信会社からダンススクールまで、企業、団体の規模や職種もさまざま。どのような課題をどう解決すればいいのか、学生たち自身で探すことから始まります」。

実践的なゼミを通して、学生にどのような気付きがあるのでしょうか？

「大学で習った理論をきちんと社会で生かすには、自分で調べたり人の話を聞いたほうが重要となります。そこでゼミでは、企業の方との打ち合わせやフィールドワークの時間を大切にしています。今後、学生が社会の中で仕事をしていく際に、理論や根拠がなければ人を説得することは

## 地域資源を生かした新しい価値を作る

### 経済学部 / 課題解決型学習 (PBL)

関わった商品が  
店頭で並んでいるのを見ると、  
なんだか自慢したくなります！

経営と会計コース3年  
田浦悠太郎さん



五島産の椿油を配合した「ツバキスト」。品質の高さを消費者にどう伝えるかが課題です。

ゼミでの意見交換は、企業の第一線で働く社会人の目線を学ぶ機会となっています。

できません。ゼミで試行錯誤しながら、その必要性に気付いてほしいと思います」。

プロジェクトの中心で大学やJ.A.こととの橋渡し役を担うスワンドライの原竜さんは、学生との協力が商品開発・販売に役立っているといいます。

「自社商品の開発は初めてだったので、各分野とのチームで取り組む「学農商工連携」は強力な後押しとなりました。会議ではアイデアの率直な意見も聞けたり、また一緒にアイデアを考えることも多く、毎回楽しく参加させていただきました」。

プロジェクトに参加したゼミの学生にもお話を聞きました。経営と会計コース三年の田浦悠太郎さんです。

「僕たちが取り組んだのは、商品の社会的認知を高めることを目的としたクラウドファンディングのホームページへの掲載です。椿油を使った洗剤の特長や魅力を効果的に伝えられるよう、紹介文や写真、返礼品の内容を考えました」。

会議にはスワンドライの商品開発を担当している原さんが何度も加わったそうですね。

「はい。会議では商品PRに繋がるアイデアを自分たちで考えて提案させていただきました。ただ、どれも具体的な実現性や裏付けになる根拠が乏しく、理想と現実のギャップを感じました。それでもお話を最後まで聞いてくださり、とても勉強になりました。今後は自分たちで市場調査も行いながら、商品の販売戦略を組み立てたいと思います」。

## ものづくりの 実践的アプローチ

工学部ならではの発想と想像力を駆使して、企業や自治体が抱える問題の解決を目指す講義科目「創成プロジェクト」。

担当の中村聖三教授のお話です。

「創成プロジェクトは、ものづくりを支える人材の育成を目指し、新潟大学と富山大学との共同で開催される発表大会「学生ものづくりアイデア展」に繋がる講義です。地元企業や自治体から提案された課題に対し、学生が二人から五人ほどのチームに振り分けられます。そして自分たちで試行錯誤した成果を発表する活動報告会が十一月に行われ、今年は上位二チームが新潟大学で開催されるアイデア展に出場します」。

地元企業や自治体からの課題も様々ですが、最終的にどのような成果の形になるのでしょうか。

「調査の結果をまとめたリ、システムを作成したり、具体的なモノを作成する場合もありますが、この講義では、成果だけではなくプロセスも重要だと考えています。課題に対するアプローチから完成まで、その過程を、から体験してほしいです」。

活動報告会は講義室でのプレゼンに加えて、各ブースで成果を紹介するポスターセッションもあるそうです。発表内容も審査の項目なのでしょうか。

「工学部はものを作って研究成果を示す

## 成果だけでなく、試行錯誤も重視する学び

### 工学部 / 創成プロジェクト



プレゼン後のポスターセッションでは模型を使って説明。直接その場で意見を聞く貴重な機会です。

データをもとに実用化できるよう、  
これからも研究を  
進めていきたいと思います！

電気電子工学コース1年  
橋本龍太さん(右)  
原田怜さん(左)

活動報告会のプレゼンでは、従来の防霜ファンと噴流装置を比較して優れている点をアピール。

世界ですが、それを作る目的や社会的な意義を明確に説明できるくらい研究を深めていないと、単なる作業になってしまいます。学生にはアイデアを形にするプロセス、そして人に伝える部分まで考えてほしいと思います」。

活動報告会で、二人に輝いたチームの二人にもお話を伺いました。電気電子工学コース二年の橋本龍太さんと原田怜さんです。

「僕たちは東徳林のお茶の品質や生産性を向上させる新しい技術の開発を目指しました。長崎県農林技術開発センターの茶葉研究室を訪問し、実際に茶畑に足を運んで農家の方の話を聞く中で、霜を防ぐために用いているファンのランニングコストが高いことや、また稼働しているファンの騒音に悩んでいる現状を知りました。そこで僕たちは、防霜のコストと騒音を軽減できるように、ファンではなくプロアワーで風を送り込んで霜を防ぐ噴流装置を考案しました。ポスターセッションのブースでは模型とドライアイスをを使って空気の流れ方を説明しましたが、効果の明確な数値データが必要とアドバイスをいただいたので、ものづくりアイデア展ではより詳しく伝えられるように準備します」。

自ら課題を設定し、アイデアをきちんと形にして伝えること。創成プロジェクトで学ぶことができるのはものづくりの基本と醍醐味であり、それが研究の大切な土台となります。



# サークルの星!

キラッと光るサークルや  
活躍する学生をクローズアップ!



## 鯨類研究サークル Balaena

### イルカやクジラへの愛にあふれた 自由で幅広い研究活動

「もともと、水産学部の天野雅男教授の海棲哺乳類研究室の活動を1年~3年生の早い段階から経験したい学生によって結成されたサークルです」と語るのは代表の川上萌さん(水産学部3年)。時には研究室のメンバーに同

行して、大村湾のスナメリの目視調査に参加したり、イルカやクジラが漂着した際に大学での個体の処理や計測の補助をしたりすることもあるそうです。「調査を行うのに制限がある鯨類の研究は、実際に個体を見る経験がと

ても貴重です。私自身、クジラ類の研究をしたくて水産学部に入ったので、早くから高いレベルの経験ができてうれしいです。こうした専門性の高い活動だけではなく、イルカやクジラの魅力を発信するようもっと身近な活動もしているそうです。「水産学部による「鴻洋祭」ではクジラの骨格標本を飾ってクイズゲームをしたり、クジラの絵が描か

サークルのOBが  
研究の一環で制作した、  
スナメリの骨格標本!



専門的な鯨類の研究に携わりたい部員と、クジラやイルカが好きでもっと知りたい部員と一緒に仲良く活動しています。

自分の手でものを  
作り出せる楽しさが  
一番の魅力です!



## 機械ガール

### 女子学生ならではのチームワークで ものづくりの楽しさを伝える

工学部工学科の機械工学コースに在籍する女子学生が集まったサークル。男子学生が多い工学部の中で「リケジョ」同士の親睦を深める機会にもなっています。部長の衛藤紗千子さん(4年)のお話です。「同じ学年に女子学生が少ないので、お互いに授業の内容を教え合ったり、研究室を選ぶ際にはサークルの先輩に相談したりしています。代表的な活動は、長崎市科学館で毎年行われる

## 熱帯医学研究会

### 海外に目を向けた学生たちが 主体的な活動で見識を深める

医学部の中でも、熱帯医学研究所の行う国際的な研究や医療活動に興味を持った学生が集まる研究会。早朝から先生を呼んで勉強会を行うなど、熱心な活動からは学生自身の目的意識と積極性が感じられます。「自分たちで企画した活動に合わせてグループを結成し、協力しながら取り組んでいます」と話す副部長の的場芽玖美さん(医学部3年)は、自ら中心となって立ち上げたグループでインドを訪れ、終末

期医療について研修を行ったそうです。「目的はマザーハウスでのボランティア参加でしたが、現地に向かう前に何度も勉強会を重ねてしっかり準備をしました。また、チームでの研修を通じて自分だけではなく複数の視点で考えることができ、より有意義なものとなりました。」

研究会に所属することで、他にどんな利点がありますか?「熱帯医学研究所は世界的にも有名で、現地で研究や医療活動に従事してい



日本だけではなく、  
さまざまな国の医学生と  
交流を深められます

フィリピンで行われた研修の合間に記念撮影。医学についてだけではなく、外国の文化について知る貴重な機会にもなっています。

る方から直接学んで研修できることが利点です。また、研究会が国際医学生連盟(IFMSA)の活動の一環である交換留学プログラムの

窓口となっており、海外の臨床現場で視野を広げるためのサポートが充実しているのも特徴です。



各学期に一度行われる活動報告会で、自分たちの活動を他の学生たちと共有します。



交換留学プログラムを利用して、イスラエルの病院で研修を行った学生も。さまざまな国から医師が集まる環境で視野が広がったそうです。

「青少年のための科学の祭典」に出席して工作の楽しさを伝えることです。今年はひもを引っ張って回すぶんぶんゴマを幼稚園から小学校低学年くらいの子どもたちと一緒に作りました。

衛藤さんは以前から工学や機械の世界に興味があったのですか?「はい。高校では物理や数学が好きで、それを生かしたくて工学部を志

望しました。どの大学も工学部には女子学生が少なく不安だったのですが、長崎大学には機械ガールがあることを知って、それが入学の後押しにもなりました。それにさまざまな分野の研究を行っている女子学生とサークルを通して交流できるので、卒業後の就職や大学院への進学に関する相談がしやすいのも助かっています。」



「青少年のための科学の祭典」では工作体験のブースを出展。小さな子どもたちの補助をしながら、自分で完成させる楽しさを伝えます。



# ロンドン大学と長崎大学がタッグを組み グローバルヘルスの最前線で活躍する人材を育成

## 文部科学省／平成三十年年度「卓越大学院プログラム」——世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム

### ロンドン大学と同じ 教育と研究が実現

このたび、文部科学省の平成三十年年度「卓越大学院プログラム」に長崎大学の「世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム」が採択されました。今年度からの新規事業である「卓越大学院プログラム」とは、海外のトップ大学や民間企業などの外部機関と連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集した、五年一貫の博士課程学位プログラムです。いわば世界レベルで活躍する博士人材を国が全面的に支援して少数精鋭で育成するというもの。国公私立三十八大学から五十四件申請され、長崎大学のプログラムが九州では唯一、全国十二大学のプログラムと共に採択されました。プログラムコーディネーターの有吉紅也教授にお話を伺いました。

「グローバルヘルスの分野で世界最高峰に位置するロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）と戦略的パートナーシップを組み、長崎大学とLSHTMの教員を中心とした共同研究を推進することにより、世界レベルで活躍できる人材を育成する環境をつくり出すというのがこのプログラムの大きな特徴です。しかも、一部の学生はジョイントデイگری制で両校から認定される学位を取得できます」。

ジョイントデイگری制とは何ですか？  
「ジョイントデイگری制とは両校に学籍を置いて学び、卒業するときは両校から学位をもらう制度です。学位記も1枚の中に両校が連名となっており、組み合わせることで、修了時には両校で認められた単一の学位を取得できるという



熱帯医学研究所 有吉紅也 教授

ロンドン大学修士、英国オーストラリアン大学博士、英国セントメアリー病院、英国MRC西アフリカガンビア研究所、国立感染症研究所、タイ国立衛生研究所JICA専門家を、二〇一五年長崎大学教授に就任。二〇一五年より、熱帯医学グローバルヘルス研究科研究科長、ロンドン大学客員教授、専門分野は、エイズ、熱帯医学、臨床疫学、感染症学。

うものです。LSHTMの学長であるピーター・ビオット博士は、エボラウイルスの発見者であり、国連合同エイズ計画（UNAIDS）事務局長も務めた、世界のグローバルヘルスを牽引するキーパーソンです。そのビオット博士が、熱帯医学研究所を有する長崎大学のこれまでの実績とグローバルヘルスへのコミットメントを高く評価し、パートナーに選びました。日本にはもって世界で活躍できる人材や技術が埋もれている、共にトップレベルの人材育成を介して世界に貢献しよう、と決断したのです。このプログラムでは、博士前期課程でLSHTMの講師陣らと一緒に、LSHTMの素晴らしい疫学・統計学や熱帯医学などの教材を基に教え、学びます。そして後期課程では、両校で進められる共同研究メンバーの一員として、海外の最前線のフィールド研究やラボ研究

に携わることが出来ます」。

すると、長崎大学の「卓越大学院プログラム」で学ぶと、LSHTMと同レベルの教育が受けられるということですか？  
「そう考えてよいでしょう。これまでグローバルヘルスの分野で世界クラスの研究者が日本から育ちにくかった背景には、この分野で世界を動かすような国際プロジェクトに学生時代から参加する機会が乏しかったことがあります。また、海外の大学で学ぶには、学費を含めた留学費用の問題などが大きかったのは否めません。しかしこのプログラムならば、常にロンドン大学と長崎大学の教員と一緒にチーム制で指導しますし、学費の面でも特別な待遇を受けられます」。

公募は昨年一月から始まり、すでに優秀な人材が集まりつつあります。

### 長崎大学の他学部の学生にも 学びの門戸が開かれる

もう一つ、この「卓越大学院プログラム」では、長崎大学全体を包括した動きもあると聞きました。

「そもそもグローバルヘルスは、従来の保健医療の領域を飛び越え、経済学、教育学、多文化社会学、水産・環境科学、工学など、あらゆるジャンルとつながっています。異なる専門性を持った人たちが日本の企業を巻き込んでこそ、地球規模の健康課題の解決につながる新たなイノベーションの可能性が広がるからです。そこで、他学部の教員でもグローバルヘルスに興味があればこのプログラムに参加し、学生を送り込んで共に教え、学ぶことができるよう間口を広げるといふ計画があります。その中で、卓越した研究プロジェクトや学生は資金的にも援助されます。今回のプログラムには、大学全体をグローバルヘルスへ巻き込む突破口としての意義もあります」。

世界中のすべての人々の健康で幸せな生活を実現するために解決すべき課題は山積しており、世界中の研究者が地道な努力を重ねています。

そしてここ長崎大学でも、ロンドン大学とのパートナーシップをてこに、新たな「知のプロフェッショナル」を育てるプログラムが始まりました。



右がロンドン大学本部、左が衛生・熱帯医学大学院。世界のグローバルヘルス分野のキーパーソンが多く在籍していることから、内部で議論されたことが世界保健機関（WHO）などの政策に反映されることも多いのだそうです。



LSHTMと長崎大学のジョイントデイگری調印式の様子。前列中央／LSHTM学長であるピーター・ビオット博士、右／河野茂長崎大学長、左／北瀬熱帯医学・グローバルヘルス研究科長。ちなみに、両学長の間に立つ赤いネクタイをした男性は館長公二駐英大使。大学間の調印式に英大使が立ち会うことは大変珍しいのだとか。両国がこの締結に寄せる期待の大きさが表れています。



追悼

# 下村脩博士を偲ぶ

## 研究の原点は長崎大学 偉大なる先輩がここに

昨年十月十九日、ノーベル化学賞を受賞した下村脩博士が長崎市内で永眠されました。九十才の生涯でした。

下村博士は、長崎大学薬学部の前身である長崎医科大学附属薬学専門部の卒業生です。博士と長崎大学について、河野茂学長にお話いただきました。

「下村先生は長崎大学にとって誇るべき、燦然と輝く傑出した科学者です。先生は、終戦の前年である一九四四年、十六歳で大阪から長崎県諫早に疎開され、一九四七年に長崎大学薬学部の前身である長崎医科大学附属薬学専門部にご入学、ご卒業後も、長崎大学薬学部で引続き研究されました。さらには名古屋大学、プ

リンストン大学で研鑽を積み、ついには二〇〇八年ノーベル化学賞を受賞されました。その年に長崎大学中部講堂にお招きして、ノーベル化学賞受賞記念講演会を開催し、当時長崎大学病院の病院長であった私

も、先生のお話を間近で聞く機会を得ました。先生は渡米されて約半世紀近くとなるのに、まったく「アメリカナイズ」されていない、古き良き日本人の職人魂のようなものを持つておられたお姿が、今でも鮮明

に焼き付いていました。原爆の惨禍から立ち上がり始めた直後からこの大学で学び、研究を開始された先生は「研究の原点は長崎大学にある」とおっしゃいました。我々の大先輩がノーベル賞を受賞されたことは、これからも長崎大学にとって最高の

榮譽です。二〇〇九年には、<sup>※1</sup>士度<sup>※2</sup>のゆい講演とともに、「長崎大学名誉博士号」第一号を授与させて頂きました。ご講演の最後には若い世代に向けて「どんな難しいことでも、努力すれば何とかなる。絶対あきらめないで成功するまで頑張ろう」という



夏になると家族総出で中中オワンクラゲを採集したという下村博士一家。それもなんと19年間続けたのだそうです。

## 生命科学の 研究に欠かせない GFPを発見



The Nobel Prize in Chemistry 2008  
Osamu SHIMOMURA

メッセージを残しておられます。文教キャンパスには、博士を顕彰した下村脩名誉博士顕彰記念館があります。高校生を対象としたオーブンキャンパスでも紹介されており、一般公開もされています。この機にあためて下村博士の功績を深く知るために、足を運んでみてはいかがでしょうか。

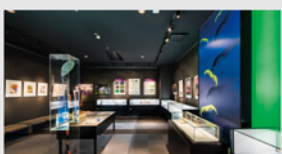
## オワンクラゲの発光現象の 研究過程で発見したGFP

下村博士の研究内容については、化学発光を専門とする黒田直敬薬学部長に解説していただきました。黒田教授も、二〇一一年、長崎大学で開かれた学会に招かれた下村博士に接し、若い研究者に気さくに声をかけ励ます姿に感銘を受けたそうです。

「下村博士は発光生物の発光機構解明に貢献されてきましたが、中でもノーベル化学賞受賞の対象となったのは、緑色蛍光タンパク質（GFP）の発見とその成果です。GFPの遺伝子は、ある遺伝子が発現しているかどうかを判別するために使われるレポーター遺伝子として、今や生命科学の研究には欠かせないツールとなっています。GFPとの融合タンパク質はその蛍光により可視化できることから、GFPによる標識技術は目的タンパク質の発現や動態を追跡するための有効な手段となりました。

GFPは博士がオワンクラゲの発光現象を解明する過程で明らかにしたタンパク質です。オワンクラゲは世界中に生息する発光クラゲで、そ

の傘の外縁部には点々と緑色に光る発光器官を備えています。博士がこの発光物質の解明に着手したのは一九六一年で、その研究過程で明らかとなったのは、カルシウムイオンの存在で光を放つ発光タンパク質イコールでした。イコールはアポタンパク質、発光物質であるセレンテラジン及び分子状酸素の複合体として存在しますが、カルシウムイオンとの結合が引き金となり、その過程でラジンの酸化が起こり、そして過程で発光が生じます。しかし純粋なイコールからは得られる光は青色であり、オワンクラゲが示す緑色とは異なっていました。この違いはオワンクラゲの発光細胞の中にイコールとGFPが共存し、生物発光共鳴エ



### 下村脩名誉博士顕彰記念館

記念館は薬学部本館隣。学生時代の写真からクラゲ採りに使った特製の網、研究概要、ノーベル賞関連の資料まで、貴重な展示物が並びます。

開館 / 10時～17時

休 / 土日祝日、大学休校日

問 / 薬学部総務係 TEL.095-819-2413

Dr. Osamu Shimomura  
Memorial Honoring Museum

いることにありました。博士が発見したGFPの遺伝子は、共にノーベル化学賞を受賞したマーチン・チャルフィー博士やロジャー・チェン博士らによってレポーター遺伝子として利用法が開拓されました。今後、生命現象に関する複数情報の可視化を目指して、新しい蛍光タンパク質とその遺伝子の探索や改良がますます進展していくことが予想されます。薬学の研究は地道な努力の積み重ねであり、根気と強靱な精神力が欠かせませんが、博士の功績は、長崎大学で学ぶ学生や研究者にとって大きな励みであり目標となっています。

十二月二日には「下村博士合同お別れの会」（長崎県、佐世保市との合同開催）が文教キャンパスの中部講堂において開催されました。多くの知人や関係者が集まり、博士の人柄や功績を偲びました。

オワンクラゲの光るリングから抽出した発光物質が世紀の発見につながりました。

※1 ノーベル化学賞受賞記念講演会は、その年（2008年）ではなく、翌年（2009年）開館に訂正いたします。

※2 「二度目の」について、削除し訂正いたします。



## 冬を告げるブリ

「グラバー図譜」の中から、一点ずつクローズアップし、山口敦子教授に解説していただく人気コーナー。今回は今季の季節ならは、ブリです。「ブリは、北海道以南の日本と韓国、中国沿岸にかけて分布するスズキ目アジ科ブリ属の魚です。最大では全長一・五メートルを超える回遊魚で、師走の頃に美味しくなることから、鱒と書きます。富山県の氷見ブリのように寒い地域で有名ですが、産卵場は東シナ海などの暖かい海域にあります」。

魚へんに師走で「鱒」とは納得です。しかし、アジ科の魚だったとは意外ですね。

「日本近海のブリ属にはほかにヒラマサ、カンバチ、ヒレナガカンバチが知られており、統計ではブリ類とまとめられています。長崎県でのブリ類漁獲量は全国一位。漁獲が冬に集中する富山県などをはるかにしのぐ漁獲量です。ブリの多くが定置網で漁獲されます。定置網とは、沿岸を回遊する魚を網の中へと誘導して獲る漁法で、その特性上、網を設置する位置や網張りの方法がほんの少し違うだけで漁況が左右されます。学生の頃、研究のために初めて同行させてもらった漁業が、寒い冬の日のブリ定置網でした。漁師さんは早朝、網揚げの前には必ず、網口に設

る説など、さまざまに考察されています。ブリの産卵は晩冬から春にかけて行われ、全長三センチメートルくらいの稚魚になると体に横縞ができ、流れ藻に付くようになります。この習性から藻細魚、すなわちモジャコと呼ばれるようになったといいます。九州や四国南部の沿岸では四月〜五月にかけてモジャコ漁が行われます。養殖用の種苗とするためです。ここで難を逃れたモジャコは日本海と太平洋側に分かれて成長し、その後、流れ藻を離れて沿岸の浅所に向かい越冬します。おおむね二〜三歳になると産卵場を目指して初めて南下し、その後は産卵後の北上、産卵期の南下を繰り返すようになります。日本海で調査をしていた頃は、脂の乗った寒ブリを食してブリは日本海に限る!と思ったものでした。そして、長崎に赴任してきたばかりの頃、あまり期待せずに芯で獲れたブリを食べてみると……、それは予想を覆す美味しさでした。脂も身の締まり具合も北陸のブリとは違うのだけれど、長崎の地で食べると妙にしっくりくるのです。これこそが長崎の味だと気づかされました。私自身も年を重ね、移り変わる四季の景色と同じく、その土地だからこの味わいを心から楽しめるようになってきました。命をいただいで生きているなあと実感します。

置した魚群探知機の記録をチェックして「おー、今日はイシダイ三百匹、シユモクザメも少し入ってるな」なんて予言します。今日は何が見られるのかとワクワクしながら網揚げをお手伝いしていると、色彩豊かな大小の魚影が姿を現し始めます。そして……予言的中、漁師さんの話通りの魚が入っているのは驚いたものです。ブリ定置網は、網に入ったブリが逃げ出さないように、さらに奥の袋網に誘導される仕組みになっています。この最後の網をあげるのがブリ定置網漁のフィナーレ。何百もの人きなブリが激しい水しぶきをあげながら姿を現す様子は圧巻です。漁師さんはその網を貯金箱と呼んでいました。確かに、うまくいけば隣り間にたくさん新鮮なブリを手にするわけで、中身のわからない海の貯金箱を開けるようなものです。定置網は四季折々に変化する魚類相を肌で感じられること、何が獲れるかわからない面白さが魅力です」。

## 縁起の良い 出世魚

「ブリの語源について、「魚名考」では、あぶらの略転でアブラがブラ、ブリ、となったという説や、老魚の意味で、年経るたる「老」りにより、ブリ、これに濁音をつけたものとす

さて、古くは武士が成長すると名前を変えたように、成長につれて呼び名が変わる魚を出世魚といえます。モジャコ以降、六十センチメートルくらいまでは各地でイナダやワラサ、ヤサ、ハマチ、フクラギなどの名で呼ばれ、八十センチメートル以上で成長したものがブリと呼ばれます。長崎など西日本の各地には、お正月のお雑煮に出世魚であるブリを入れて食べる習慣があります。縁起が良いからです。ブリ料理の中で私の一押しはブリ大根。ブリ独特の臭みを出さないように、ブリからの出汁を大根にしつかり染み渡らせて薄めの味で仕上げたものは絶品です。最近では天然ブリの味を知らない人が増えているのだとか。残念です。天然の魚の味を知ってもらいたい。関心をもって知ること、それが海を守ることにつながると思っております。平成最後のお正月、縁起もののブリで運氣を味方につけましょう。

【筆者プロフィール】  
長崎県生まれ。甲南大学法・一九七四年  
小学館編纂『日本魚類図鑑』(小学館)



解説 山口敦子  
長崎大学水産・環境科学  
総合研究科教授

Atsuko YAMAGUCHI  
東京大学大学院農学生命科学  
研究科博士課程修了。  
2000年から長崎大学。専門  
はエイやサメなど魚類学と水産  
資源学の研究。主な著書に  
『干潟の海に生きる魚たちー  
有明海の豊かさ危機』(東海  
大学出版)など。



Glover Atlas

# ブリ

*Seriola quinqueradiata*  
画家 長谷川雪香

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern  
& Western Japan

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

「グラバー図譜」は、長崎の実業家であった  
倉場富三郎氏が編纂したコレクションです。  
日本四大魚譜の一つといわれています。



長大生の未来を支える

# 西游基金

ご支援のお願い

「西游基金」は、長崎大学が出島を介した「勉学の地」としての誇りと「進取の精神」を受け継ぎ、地域の持続的発展から地球規模の課題を解決するための傑出した人材育成を目指し、本学独自の修学支援、教育・研究の幅広い支援を目的として開設した基金です。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

長崎大学西游基金

寄附のお申込み等は  
こちらから



長崎大学 西游基金 検索

長崎大学  
広報戦略本部 校友会・基金室  
〒852-8131  
長崎県長崎市文教町1-14  
TEL.095-819-2976  
FAX.095-819-2056  
nukikin@ml.nagasaki-u.ac.jp  
https://www.nukikin.jimu.nagasaki-u.ac.jp



「長崎出島公園」  
(長崎大学長崎西園西園)

事前申し込み不要です。  
お気軽にご参加ください。

## 第12回 ダウン症候群 トータル医療ケア・フォーラム

ダウン症候群に合併する甲状腺障害、糖尿病、高尿酸血症等の内分泌・代謝疾患と整形外科疾患の現状とその対策について講演します。

日 時／平成31年1月12日(土) 13:00~17:00

場 所／長崎大学 医学部 記念講堂(坂本キャンパス)

対 象／ダウン症候群のある方、そのご家族、ダウン症と関係ある方

受講料／無料 申込み／不要

問合せ先／長崎大学病院 小児科  
TEL.095-819-7298 FAX.095-819-7301



# Choho

長崎大学広報誌  
[チョーホー]

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

将来、グローバル世界で活躍するには、まずは生活基盤である地域に目を向けることで、地域や地方が抱えるさまざまな課題とその問題解決に取り組み、いかなる状況にあっても問題点は何かを抽出し、問題解決ができる能力を身に付けておくことが重要です。長崎大学には、このような実践力を養成する授業やプロジェクトが部局ごとに用意されており、「長崎で学ぶ」と題する特集として、特色ある取り組みのいくつかを紹介いたしました。これらの取り組みは、グローバル人材の育成とともに、地域の活性化につながっていくものと思われます。

特集とも関連し、「世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム」が、平成30年度「卓越大学院プログラム」に採択されたことも見逃せません。  
久々の「グラバー園」もお楽しみください。

(原田哲夫)

## 【編集・発行】Choho企画編集会議

編集長 副学長、広報戦略本部副部長  
原田 哲夫 工学研究科 教授

副編集長  
相楽 隆正 工学研究科 教授

編集委員  
浅澤 克彦 多文化社会学部 准教授  
堀内 伊吹 教育学部 教授  
山口 純哉 経済学部 准教授  
松下 吉樹 水産・環境科学総合研究科 教授  
山田 明地 水産・環境科学総合研究科 准教授  
佐々木 均 病院 教授  
富山 明華 大学教育イノベーションセンター 助教  
西田 審司 やってみゆーでスク マネージャー  
宮 一則 広報戦略本部 教授  
高瀬 祐亮 広報戦略本部 主査  
向井 愛 広報戦略本部 主任  
濱崎 麻依 広報戦略本部  
北村 春香 広報戦略本部

川良 真理 編集  
大口 尚子 編集  
藤本 明宏 編集  
三浦 秀樹 デザイン  
浅野 眞 企画編集アドバイザー  
池田 幸恵 企画編集アドバイザー

TEL.095-819-2007  
FAX.095-819-2156

www.admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

Choho(チョーホー) Vol.66  
2019年1月1日発行

クイズへの応募  
は右記からも  
可能です。



## Information



## 入学試験情報

### 大学入試センター試験

試験日	1月19日(土)・20日(日)
-----	-----------------

### 長崎大学一般入試

※教育学部中学校教育コース技術専攻、医学部医学科および歯学部は26日(火)も実施

区分	出願期間	試験日	合格発表
前期日程試験	1月28日(月)~ 2月6日(水)	2月25日(月)*	3月8日(金)
後期日程試験		3月12日(火)	3月21日(木)

詳しくはWebまたはQRコードから

[http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/nyu\\_main.html](http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/nyu_main.html)



## 卒業式

日時 3月25日(月)  
場所 長崎ブリックホール



## 入学式

日時 4月2日(火)  
場所 長崎ブリックホール



## プレゼントクイズ

長崎大学病院は、平成28年に新しくなった中央診療棟に多くの手術室を設けました。現在いくつかの手術室があるでしょう。

① 5室	② 13室	③ 19室
---------	----------	----------

解答は狭み込みのハカキにご記入のうえ、郵送してください。  
長崎大学のウェブサイトからもご応募できます。  
正解者の中から抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント!

## 前号の答え／㊦ 33パーセント

「やってみゆーでスク」の登録メンバーは学生総数の何パーセントに達しているでしょう。

学生が地域でのボランティア活動に参画しやすいよう、学生と地域をつなぐ組織「やってみゆーでスク」。今年で創立12年目ですが、今では2,500名以上と、長大生の3人に1人は登録していることになりました。昨年は「長崎ランタンフェスティバル」や「精霊流し」のお手伝いを体験した学生もいました。

## 今回のプレゼント

今回は五島列島秘伝の「ご飯のお供」が登場です。体にいい魚の脂たっぷりの天然真さばの生節に醤油と十数種類の具材を加えて煮込んだ「さば燻製そぼろ」と、羽かつおをレンジで燻した生節に特製ねぎ塩だれをかからめた「ねぎ塩だれかつお生節」、どちらも絶品と評価が高い加工食品です。ご飯のお供にはもちろん、混ぜ込んでおにぎりに、チャーハンやパスタにと、アレンジも広がります。この2種の詰め合わせを正解者の中から抽選で5名にプレゼントします。



提供／五島列島海鮮工房 鮮魚 TEL.0959-72-7060  
長崎県物産館 TEL.095-821-6580

さば燻製そぼろ(120g)とねぎ塩だれかつお生ぶ(120g)詰め合わせ 3,800円(税・送料込)

[http://www.e-nagasaki.com/contents/bussan\\_bild/](http://www.e-nagasaki.com/contents/bussan_bild/)